



財団法人 星総合病院

けんこう

懸虹

(題字は名誉理事長直筆)

平成22年11月 No.269

特集

放射線科における 画像診断

- 第79回集談会
- 第12回医霊祭
- 海外研修報告
- 呼吸リハビリテーションスタート
- 出産体験記
- ピンクリボンin郡山
- 施設ニュース



錦 秋 (P30、2000)
名誉理事長 星 一雄

醫

霊

当法人が指定管理者として三春町立三春病院を運営するにあたり、三春・田村地域では分娩施設がないため当院で出産が出来るよう分娩室をはじめとする産科医療設備を整備しました。しかし、産婦人科・小児科常勤医師が現在確保が困難であり周産期医療が実施できずにあります。地域医療を考える上で産婦人科・小児科は必要であると考え、非常勤医師による外来診療のみではありますが実施しているのが現状です。

平成二十年十二月三十一日現在、福島県内には三、七六〇人の医師が医療施設に勤務しておりますが、産科・婦人科医師は一三六六人、小児科医師は二一五人と僅かです。また、厚生労働省が九月二十二日に発表した平成二十一年医療施設(動態)調査では、「産科・婦人科」や「小児科」を標榜する一般病院は年々減少傾向にあり、平成五年から「産科・婦人科」は約三十七%、「小児科」は約三十%も減少しています。

この傾向は今後も続くと思われるかもしれませんが、地域ニーズに応えられる魅力ある病院づくりと、多くの医師が集まってくれる病院となるよう努力し、やがては三春町立三春病院で「里帰り分娩」が出来る様になればと思います。

石川 元久

＜醫霊＞霊をも醫(癒)やしたい——という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた当法人の理念

放射線科における 画像診断

星総合病院
放射線科統括部長
星 宏 治
昭和55年福島県立医科大学卒業
日本医学放射線学会認定専門医
日本核医学会認定専門医



当院では平成21年6月より、一部の検査を除いて、フィルムでの読影からビューワー（モニター）にての読影に移行しました。これにより、フィルムを捜す手間が省け、保管する場所の確保もなくなるなどさまざまな利点が生じ、撮像した画像をすぐに見ることも可能になり、患者さんへの診察などもよりスムーズになりました。

このように、現在、画像診断の進歩はとどまることを知りません。画像診断の世界では、数年前まで当たり前だった検査が、今は完全にすたれてしまうということもしばしばあります。その一方で、胸部単純X線撮影のように、装置の進歩を伴いながら100年近く生き延びているような検査も存在します。

当院放射線科で行っている業務内容などの概略を説明させていただきます。

1 一般撮影

X線が人体を通過する際の透過性の違いを白黒写真として表現したものです。胸部、骨などを代表に、現在においても画像診断の基本となる大切な検査です。乳房検査（マンモグラフィ）、歯科撮影など専用の撮影機器を用いる検査もあります。

2 消化管透視検査

胃や大腸などのバリウム検査が代表的で、発泡剤や空気などを用い、がんや潰瘍などの病変を描出します。

3 コンピュータ断層撮影（CT検査）

CT装置は1973年に臨床応用されて以来、欠くことのできない検査技術になっており、CTのお陰で外科手術をせずに体の断面像を得ることができるようになりました。以前は1回転で1枚の断面像しか得ることができありませんでしたが、マルチスライスCTの登場により、1回転で複数枚の断面像が得られるようになりました。当院にはCTが2台あり、いずれもマルチスライスCTで、16列と64列が配置されています。後者は1回転で64枚の断面像が得られ、全身の動脈の詳細な描画が得られることから、特化して検査しています。特に、心臓を栄養している血管である冠動脈撮影は、精力的に行っています。ヨード造影剤のアレルギーがない、10数秒息止めができる、認知症がないなど一定の条件を満たせば、静脈注射のみで冠動脈が1本ずつ詳細に検討でき、狭窄の有無や血管周囲のコレステロール沈着の様子などを知ることができます。

労作時や朝方に胸が痛いときがある、登山に行きたいが心筋梗塞等も心配の方、もし居られましたら、是非、当院循環器科を受診され、必要に応じて同検査を行うことをお勧めします。

4 磁気共鳴画像法（MRI検査）

大きな磁石を使った撮影法で、X線は使いません。大きな磁石の中に体が入ると、体内の陽子（プロトン）はその磁場に沿って（地球の磁場におけるコンパスの針のように）整列します。そこで、電磁波（ラジオ波）を送りこの整列を乱し、ラジオ波を止めることによって再びプロトンは整列しますが、元に戻る過程で発生するごく微弱な信号を検出することによって画像を作成しています。ペースメーカーを装着している方や体内に金属が埋めこまれている方は原則として検査できません。MRI室内に時計や磁気カードなどを持ち込むと使えなくなってしまう、場合によっては大きな磁石に向かって高速で飛んでいき、大変危険です。検査の前に金属類のチェックを入念に行う必要があります。撮影中はコンコンとかブーブーというような工事現場にいるような大きな音がして、びっくりすると思いますが心配しないでください。MRI検査は横断像だけでなく、あらゆる方向の断面を撮像でき、また、造影剤を使用しなくてもいろいろな画像を得ることもできます。例えば、脂肪抑制画像では脂肪のある部分が黒く抜けて見えることにより、脂肪抑制しない画像と比較することによって、脂肪成分を有する腫瘍であることなどが分かります。画像診断にかなり有用な撮像方法です。血管も造影剤を使用しないで描画でき、脳動脈瘤の診断などに用いられています。当院では、脳梗塞に関しては24時間体制でMRI検査可能な状態になっており、急性脳梗塞の早期診断に威力を発揮しています。



図1

核医学検査 (R)検査・ アイソトープ 検査)

ガンマ線という放射線を放出する少量の薬（放射性医薬品）を主に静脈から注射し、検査用のベッドの上で静かに横になっている間に、ガンマカメラで体の中の様子を画像（シンチグラム）にする方法です。腫瘍や炎症の検出、各臓器の働きや血流分布などの評価に役立ちます。全身を一度に撮影する検査としては、骨シンチ、ガリウムシンチなどがあります。臓器別では、脳、肺、心臓、甲状腺、唾液腺、腎臓、副腎などの病気の診断ができます。核医学検査は、病気の早期検出に加えて、臓器の働き具合（機能）を調べるのにも優れており、CTやMRIなどで異常が発見される前に診断できることもあります。当院では断層撮影もできる装置が稼動しており、心筋シンチや肺梗塞の診断には必ず断層撮影（SPECT：スペクトと読み、single photon emission computed tomographyの略）も行い、診断に寄与しています。さらに最近では、心筋シンチの場合、同時にCT冠動脈撮影も行っている患者さんには、核医学画像とCT画像との融合画像も作成し、治療方針の決定に際し利用しています。この融合画像を作成している施設は全国的にもわずかですが、今後は有用性の高さから広がっていくものと思われる。

超音波 検査

USあるいはエコーとも呼ばれています。体表にゼリーを塗りプローブという検出器を密着させ体内に向けて超音波を照射します。跳ね返ってきた超音波を同じプローブで検出してリアルタイムに画像化します。頸部、心臓、乳腺、腹部骨盤内臓器、動脈や静脈、胎児など広く臨床に用いられています。

当院の超音波装置にはカラードップラー法も備わっているのです（近づく血流は赤く、遠ざかる血流は青く表示されることにより血流の方向性把握や腫瘍の性状診断に有用）、積極的に使用しています。

血管撮影

直径2mm前後の細いカテーテルという管を動脈や静脈に挿入し、透視をしながら検査目的とする血管まで進め、造影剤を注入して、血管の走行や病気、腫瘍の鑑別やその広がりなどを評価する検査法です。多くは鼠径部や肘部の血管からカテーテルを挿入します。病気の診断だけではなく、治療も行う場合はインターベンションと呼ばれています。

おわりに

近代医療における画像診断技術の進歩はかなり早く、同じ情報を得るための患者さんの身体的負荷は少しずつ軽減されてきています。画像診断の進歩に速やかに対応し努力する所存ですので、今後とも宜しくお願いいたします。

〈画像の説明〉

- 図1 CT冠動脈撮影で血管のみを3Dに抽出した画像。左前下行枝矢印部に狭窄がある。
- 図2 CT冠動脈撮影で、心筋も含め3Dで表示。
- 図3 心筋シンチで、断面像を表示しているが、特に虚血は指摘できない。
- 図4 CTと心筋シンチの融合画像。狭窄の遠位部に少し桃色の領域があり、虚血ありと判断。
- 図5 狭窄部にステント挿入後の融合画像で、桃色部は消失し、虚血は治っている。



図2

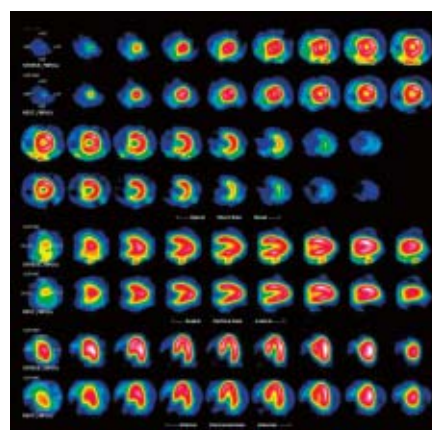


図3



図4



図5

第79回集談会

10月28日 郡山ビューホテルアネックス

集談会は、当法人職員と地域医療機関の先生方が最新の医療を学ぶ場として、また職員の日頃の研究成果の発表の場として、毎年2回開催しています。

職員による11題の研究が報告され、続く特別講演では、福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座教授の藤森敬也先生をお招きし、「妊娠中毒症から妊娠高血圧症候群へ」をテーマにご講演いただきました。職員、地域医療機関の先生方、病院モニターなど約300名が参加し、熱心に耳を傾けていました。



《一般演題》 総合司会 心臓血管外科 高橋 昌一

◎座長 薬剤部 高梨 幹也

1. ネフローゼ症候群治療中にうつ傾向となった患児への保育士の関わりについて
2. 弾性ストッキングと皮膚トラブル援助方法の開発に向けた予備調査
3. 要介護者の自宅退院後における家族の心身ストレスの変化を考える
4. レクリエーションが睡眠状況・問題行動・病棟の雰囲気を与える影響
5. 胃瘻造設者の経口摂取を試みて
—「再び口から食べたい」から始まったこと—

星総合病院 小児病棟（医療保育専門士）	圓谷 厚子
星総合病院 褥瘡対策チーム	本田 圭
星総合病院 脳神経・混合病棟	中島 夕紀
星ヶ丘病院 A-3病棟	菅野さゆり
介護老人保健施設オリオン 看護部	吉田 妙子

◎座長 臨床工学科 箭内 雅美

6. 呼吸リハビリテーションの開設と今後の展望
7. 星総合病院におけるリハビリテーションが必要な患者全例に介入するための取り組み —病棟担当制についての報告 第2報—
8. 心臓再同期療法を導入して

星総合病院 リハビリテーション科	五十嵐麻衣
星総合病院 リハビリテーション科	鈴木 努
星総合病院 臨床工学科	木村 恵規

◎座長 整形外科 遠藤康二郎

9. 心筋血流シンチグラフィにおける低運動薬物併用負荷の検討
10. 逆行性血管形成術（レトログレードインターベンション）
11. 3年以内に急激に進行し、急性冠症候群となった患者の臨床像

星総合病院 放射線科	続橋 順市
星総合病院 循環器内科	氏家 勇一
星総合病院 循環器内科	木島 幹博

《特別講演》

演題 「妊娠中毒症から妊娠高血圧症候群へ」

講師：福島県立医科大学 医学部 産科婦人科学講座 教授 藤 森 敬 也 先生

第12回解剖医霊祭

11月11日 郡山ビューホテルアネックス

平成21年9月以降、医学・医療の向上のために病理解剖された4柱の御霊を追悼し、ご冥福をお祈りしました。

星北斗理事長が「当法人の理念である醫霊の精神を心に刻み、患者さんのための医療を展開していきます」と式辞。また職員を代表して、佐久間浩樹病棟看護師長が、「医療スタッフ全員の学びとして同じ病気で苦しむ患者さんに役立てていきます」と追悼のことばを述べ、参列者一人ひとりが献花しました。ご遺族、来賓、当財団職員、ポラリス保健看護学院学生など約150名が参列しました。

—— 「病理解剖」とは ——

死亡の直接の原因、病気の状況、治療の効果の有無、合併症の有無や程度、過去の病気の痕跡などを病理医が検証し、今後の医学・医療の向上に寄与することを目的に行います。



第27回職員海外研修報告

当法人では、勤務して10年目を迎えた職員および研修医が参加して、毎年海外研修を実施しています。今年の視察先はアメリカ・ロサンゼルス。10名が参加し、救急医療・小児医療・高齢者医療の3施設を視察、医療人としての見聞を深める機会となりました。

研修期間 平成22年10月24日～10月29日（4泊6日）

研修先 アメリカ ロサンゼルス

研修参加者 10名（医師1名、研修医2名、看護部5名、医療技術部1名、総合相談地域連携室1名）

視察先

小児医療 施設名：チルドレンズホスピタル・ロサンゼルス

救急医療 施設名：アローヘッド・リージョナル・メディカル・センター

高齢者医療 施設名：リトルカンパニー・オブ・メアリー・ホスピタル

研修者の声

- ・新たな発見や視野を広げることができた。
- ・海外における異なる文化・医療制度・政治経済・教育等、あらゆる状況を視野に入れて知識を深め、今後の業務に活かしていきたい。
- ・患者への配慮や思いは、日本もアメリカも共通しており、これからも大切にしていきたい。
- ・患者や家族が安心して自分たちの将来の可能性について考えることができるような病院を皆で作っていきたくと改めて思った。
- ・それぞれの施設で、職員の対応、施設面等において「ゆとり」が感じられ、「癒し」の場・空間が創られており、当院でも参考にすべきものと感じた。
- ・米国における医療制度は、保険制度の問題点が大きく、日本の医療制度は誇れるものと思われた。

帰国報告会を開催

11月19日、星総合病院において、研修者より視察内容についての報告が行われ、職員約50名が参加しました。



アローヘッド・リージョナル・メディカル・センター外観



研修風景



リトルカンパニー・オブ・メアリー・ホスピタルにて

星総合病院

呼吸リハビリテーションをスタート

「呼吸リハビリテーション」とは、呼吸器の病気によって生じた障害を持つ患者さんに対して、可能な限り機能を回復・維持させ、自立に向けて継続的に支援していくための医療です。星総合病院では平成22年8月よりスタートしました。

対象患者 ⇒ 呼吸器疾患の既往がある方

- ・肺炎、無気肺、その他の急性発症した呼吸器疾患
- ・癌の手術前、手術後
- ・慢性呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、喘息、神経筋疾患で呼吸不全を伴うなど）
- ・人工呼吸器装着中の方
- ・肺塞栓、肺腫瘍 など

呼吸リハビリテーションのプログラム

- ・呼吸の練習
- ・呼吸筋トレーニング
- ・運動療法（立位・歩行練習、筋力トレーニングなど）
- ・胸郭（胸部の骨格）が動きやすいようにするストレッチ
- ・排痰（気道につまった痰を出す）
- ・教育⇒禁煙指導、栄養管理、病気に対する知識や理解、日常生活の指導（動作スピードの調整・呼吸のタイミングなど）



排痰のようす



歩行練習

医師・看護師・理学療法士など様々な職種が連携し、患者さんのQOL（生活の質）の向上、運動能力の改善、呼吸困難の軽減など、患者さん自身の自立に向けて、包括的に支援を行ってまいります。ご希望される方は主治医または担当看護師にご相談下さい。

なお現在は、入院患者さんを対象に実施しておりますが、将来的には外来患者さんにも対象を拡大する予定です。

松井先生の出産体験記

日々の勤務で多忙を極める医師。その中で、当院での出産を経験された循環器内科医師の松井佑子先生に、出産体験談を伺いました。



星総合病院
心臓病センター循環器内科医長
松井 佑子 先生

今年の始めに妊娠していることが分かり、仕事との両立も考えて、当院の産科にお世話になることとしました。妊娠中は今まで行っていた宿直やカテーテルなどの負担のかかる業務は同じ科の先生方に代わっていただいたり、いろいろな方々の協力を得ながら体調を崩すこともなく過ごすことができました。

8月始めから産休となり、涼しい朝に散歩をしたり、赤ちゃんの小物を作ったり、また普段会えない友人に会ったりなどして出産の日を迎えることとなりました。

直前までは出産に対する不安もありましたが、先生と助産師さんの温かい励ましのおかげで不安を感じることもなく、少しずつ強くなる陣痛にも耐え、母と夫に見守られながら穏やかな雰囲気の中で小さな命を授かることができました。そしてわが子の大きな泣き声と元気な様子を見て、長かった10カ月にやっとホッとすることができました。

現在は産休をいただき、初めての育児に奮闘しています。次第に子育ての大変さが分かってきた半面、ひとつひとつが新鮮で楽しいことも知りました。最近ではあやすと笑うようにもなっており、日々成長していく様子に驚いています。また育児中の友人との交流も広がり、妊娠・出産を通していろいろな方々と関わる機会も増え、わが子がもたらしてくれたことの大きさ、素晴らしさを実感しています。

育児休業後は復職する予定ですが、仕事と育児を両立できるように少しずつ環境を作っていこうと思っています。

最後に、当院産科のスタッフは充実しており、妊娠中から産後の母乳ケアまでしっかりとサポートしてくれますので、安心して出産、育児に臨めると思います。初めてのお産をされる方には特におすすめします。



平成23年
より
開始予定

産まれてきたお子さんへ

～世界でたった一つのオリジナルの椅子をプレゼント～

当院で産まれたお子さんの、出生日、名前が彫られた世界でたった一つのオリジナルの椅子をお贈りします。大きさは1歳児を基準とし、初めて立ちあがってお座りできるくらいのサイズ。色は木目調です。子どもが成長した後も、花瓶などを飾るインテリアなどいろいろな用途で末永くご活用いただけるデザインです。

子どもが大人になって家を離れたり、また自分の子どもを出産した際に、ふとその椅子を眺めたとき、親の愛情を感じることができる…そんなきっかけとなる、椅子になれば幸いです。



乳がん啓発キャンペーン



「ピンクリボンin郡山」2010

が開催されました (ビッグ・アイ7階)

主催: 「ピンクリボンin郡山」実行委員会/実行委員長 野水 整 (星総合病院病院長代行)

女性の20人に1人が罹患すると言われる乳がん。早期発見・早期治療で助かる病気ですが、検診受診率は全国平均で20%以下と低い現状にあります。そこで乳がんについて広く知ってもらい、また乳がん検診受診率向上を図ることを目的に、“乳がん啓発キャンペーン「ピンクリボンin郡山」2010”が、昨年に引き続き今年も開催されました。

今年は、女優であり乳がん体験者でもある宮崎ますみさんの講演をはじめ、乳がん専門医による講演、保健師による乳がん検診自己触診指導、乳がん体験者による講演が行われました。また、ウィッグ・下着などのコーナー、乳がん検診施設紹介のパネル展のほか、日本対がん協会「ほほえみ基金」への募金運動も行われました。

うすい百貨店前のサテライト会場では、マンモグラフィ検診バスの見学が、16・17日の両日にかけて実施されました。

多くの方々会場を訪れ、乳がんについての理解を深める機会となりました。



乳がんやマンモグラフィ検診施設について紹介



マンモグラフィ検診バス見学会場

施設ニュース

パート①

星ヶ丘病院

星ヶ丘フェスタ

～みんなで輪になれ 星ヶ丘～ 10月16日

今年は、『患者さん参加型』をテーマに、より多くの患者さんが参加し楽しんでいただけるよう様々なイベントを企画しました。郡山うねめ太鼓保存会による演奏、星ヶ丘保育園児の発表やカラオケ大会、病棟対抗玉入れ大会などを実施。患者さんとそのご家族、地域の方々、職員など約600名が参加しました。



三春町立三春病院

第1回みはるフェスタ

11月20日

昨年まで「みはる病院まつり」の名称でしたが、今年から隣接する三春敬老園も参加・協力するなど規模を拡大し、「みはるフェスタ」と名称を変更して開催しました。健康チェック、パワーリハビリ体操、バザー、敬老園入園者作品の展示・販売のほか、田村高校合唱部による歌とダンス、高柴ひょっとこ踊りが披露されました。多くの方々に足をお運びいただき、賑やかなひとときとなりました。



介護老人保健施設オリオン

秋祭り

9月11日

柏屋さんによる作りたての薄皮饅頭、わたあめ、金魚すくい、水ヨーヨーすくいなど施設内には様々な屋台が設けられ、また、うつくしま連の皆さんによる阿波踊りが祭りを盛り上げて下さいました。利用者およびそのご家族、ボランティアなど約300名が参加しました。



ポラリス保健看護学院

第13回 北極祭

絆～つながりは無限大∞～

9月25日

学園祭として、2年に1度一般公開している北極祭。看護学校ならではの健康チェック・健康教室に加え、白衣体験・高齢者体験・妊婦体験など各種体験、足浴、ハンドマッサージを行いました。有志発表では、チアリーディングやダンスが披露され、約250名の方々に観覧いただきました。



施設ニュース

パート②

平成22年度精神保健福祉事業功労者 厚生労働大臣表彰を受賞

～星ヶ丘病院 心理士 安藤ヒロ子係長～

長年にわたる精神保健福祉事業への業績が評価され、星ヶ丘病院心理士の安藤ヒロ子係長が、平成22年度精神保健福祉事業功労者として厚生労働大臣表彰を受けました。

精神科、児童精神科の患者さんへの相談業務、カウンセリング、生活技能訓練等に幅広く関わり、治療支援を行うとともに、院外においては郡山心理研究会や福島県デイケア連絡協議会で要職を務め、精神保健福祉事業に貢献していること等が認められての受賞となりました。

10月29日、沖縄県で開催された第58回精神保健福祉全国大会の席上において表彰を受けました。



うつくしまYOSAKOIまつり実行委員会より 車いすを寄贈いただきました(10月7日)

9月に郡山市で開催されたうつくしまYOSAKOIまつりに、星総合病院が協力したことがきっかけで、うつくしまYOSAKOIまつり実行委員会より車いすを1台寄贈いただきました。

うつくしまYOSAKOIまつりを広める会の羽根善之助代表、NPOうつくしまYOSAKOI振興会の伊藤芳雄代表が来院され、当院を代表して小林亨病院長補佐が車いすを受け取りました。

また合わせて、ヨサコイをテーマとした映画の公開を記念し、郡山テアトルから愛星福祉会に車いす1台が贈られました。郡山テアトルの村越祐介支配人、愛星福祉会の星光一郎理事長が贈呈式に出席されました。



安積國造神社秋季例大祭に参加 (9月29日)

郡山市の秋祭り、安積國造神社秋季例大祭の神輿還御に、職員およびポラリス保健看護学院学生の計23名が神輿担ぎ手として参加しました。宮本町会のお神輿を担ぎ、「ワッショイ、ワッショイ」と元気の掛け声を響かせながら、市内を練り歩きました。



財団法人 星総合病院

HP <http://www.hoshipital.or.jp>

- 星総合病院
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3711
- 星総合病院 在宅介護支援センター
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3818
- 星ヶ丘病院
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411
- 星ヶ丘訪問看護ステーション
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-962-1711

- 居宅介護支援事業所星ヶ丘
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6414
- 介護老人保健施設オリオン
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天2番地
TEL 024-952-6413
- 三春町立三春病院
〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50
TEL 0247-62-3131
- 養護老人ホーム三春町敬老園
〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50番地1
TEL 0247-62-3618

- ポラリス保健看護学院
〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字金堀田4番地
TEL 024-922-9105
- 芳賀・小原田地域包括支援センター
〒963-8813 福島県郡山市芳賀1-16-1
TEL 024-941-1121
- 星総合病院保育所
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目2-14
TEL 024-923-5550
- 星ヶ丘保育園
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号
TEL 024-951-0788

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
<http://www.hoshipital.or.jp>
発行／財団法人星総合病院
編集／「懸虹」編集委員会
発行日／平成22年11月30日
住所／〒963-8501
郡山市大町二丁目1-16



紅葉を見に安達太良山
に行ってきた。実は
このときが初登山で、登
り切れるか不安もありま
したが、眼下に広がる黄
赤・緑の美しいコントラ
ストが印象的な景色と、
清々しい空気に、体の疲
れも忘れて山の魅力に興
奮しきり一日でした。
途中、くろがね小屋(山
小屋)に立ち寄り、温泉
に入浴。温泉から眺める
風景もまたすばらしいも
のでした。
すっかり山に魅了され
た一日となりました。

広報担当 菅野

編集後記